

## 建設防災常任委員会行政視察報告書

栗 原 収

### ○静岡県焼津市

#### 市有公共建築物耐震対策事業について

##### 【所 見】

本事業は、県の東海地震の死者数半減を目標とする「静岡県地震対策アクションプログラム２００６」（平成１８年６月）の要請により策定された「焼津市地域目標」（平成２０年３月）の４７のアクションのひとつである「公共建築物等の耐震化」を具体的に実施するための詳細計画として「市有公共建築物の耐震化計画」を位置づけるなど地域性もあると思うが、地震防災を戦略的に捉えていると感じた。

本計画では、耐震性能が劣る建築物について耐震対策を計画的に行い、地震発生時の市民の安全確保、避難所の確保、復旧活動拠点の機能維持・発揮等を目指すものとしており、これにより、耐震化率を平成２７年度までに１００％とするなど、本市の目標値９０％に比べ高い目標値を設定していた。

計画の柱としては①義務教育施設最優先②低耐震性能施設優先③その他施設は危険度を総合的に判断④耐震工事は原則補強、コスト縮減が掲げられている。さらに義務教育施設については、児童生徒が一日の大半を過ごすこと及び災害時の避難所であること、同様に幼稚園、保育園についても乳幼児の安全確保を図る観点から「小学校・中学校、幼稚園及び保育園の耐震計画」を策定し計画を前倒しして平成２４年度を目途に耐震化を完了させるとするなど、さすがに東海地域での市民の安全を確保する取り組みであると感じた。

東海地震等の大規模地震に対する切迫性は高く、国、県、市の取り組みは、いかに地震による死者数を半減させるかに重点を置くなど、地震被災が少ない土地柄である本市と地震発生に対する危機意識や市民の関心の高さ等に大きな違いを感じた。

焼津市は１１月１日の大井川町（耐震化率１００％）との合併を直前に控えており、この視察は最も忙しい時期であったにも係わらず、ご丁寧

な対応をいただいたことに感謝したい。

## ○静岡県掛川市

### 緑の精神回廊について

#### 【所 見】

緑の精神回廊事業は、掛川市の生涯学習宣言20周年事業として実施されたものであり、「防災空間」「ふれあい空間」「洗心空間」「美観学習空間」の4つの役割を担う緑のネットワーク（回廊）を「緑の精神回廊」と位置づけ、「楽しく歩くこと」を基本に「思索しつつ歩くこと」や「議論しながら歩くこと」によりその魅力を高めようとするウォーキングコースによるまちづくり事業である。

コースの構成は、「8の字回廊」という大きな周回ルート（11.8km）のほか小さな5つの周回ルート（1～2.7km）、誰もが安心して利用できる潤いあるコースとなっているとのこと。市役所での事業説明の後、実際に「逆川の回廊」を2kmほど案内いただいたが、川辺の周遊は実に趣き深いものがあり、本市の情景を思い浮かべながら歩いてみた。コースの途中には休憩スポットも用意されていた。

本事業は、スローライフ都市掛川として「歩いて楽しい掛川のまちづくり」「歩行者復権のまちづくり」を目指し、平成11年度から多くの市民参加をいただき意見交換を重ねながら、順次ルート整備を行ったものであり、現在も一部工事が行われていた。

本市でも市民や観光客が市内を周遊できるコースとして足利学校・ばん阿寺、織姫山、渡良瀬河川公園、足利公園・水道山、フラワーパーク等の周辺において、歴史と文化等を基軸にテーマを整えネットワーク化すれば、既存施設・構造物に多少の整備を加えることにより、すぐにでも取り入れることができるものと思われることから、今後応用の可能性について研究していきたい。